

ヤシカフレックス写真術

改訂版

# ヤシカフレックス写真術

---

昭和30年8月5日 印 刷

昭和31年8月20日 改訂版発行 非売品

昭和32年2月5日 再改訂版発行

編 集 普 及 部

発行者 牛山治三郎

東京都新宿区市谷加賀町一ノ二

印刷所 大日本印刷株式会社

発行所 八洲光学工業株式会社

本 社・サービス部 東京・日本橋室町 1-8

営 業 部 東京・芝田村町 4-6

諏 訪 工 場 長野県下諏訪局区内

大阪サービス  
ステーション 大阪市南区鯉谷西之町3

---

ところで御座います。この事は一  
台に一面という原則から推して如  
何にヤシカフレックスの愛用者が  
激増したかとの証明になるからで  
あります。

八洲光学はこの外、ルーキー型  
には別の「ルーキー・ガイド」をお  
贈りしております。この両者に、  
更に世界各国への輸出数量を加え  
て御想像願えるならば、ヤシカの  
世界に於ける地位に於て絶対なる  
信頼を得るものと存じます。

さて、ヤシカフレックス写真術  
上層の目的は「カメラ一台に一人

でしよう。しかし乍ら本書は非常  
に限られた範囲であります。為め  
に、今後あなたがいろいろな撮影  
上の疑問にゆき当る事もあると存  
じます。その様な場合には、御  
遠慮なく下記の本社サービス部御  
受用者係へ御問い合わせ下さい。  
ヤシカフレックスはあなたのカ  
メラです。いつまでも御愛用下さ  
る事を……。絶度あなたの御満足  
頂けるものと私始め社員一同信じ  
て居ります。

昭和三十一年八月

御質問は

東京日本橋區区内

八洲光学工業株式会社

サービス部受用者係宛

の撮影指導者を、相談役を……」  
との念願から出発したものであ  
り、その指導者に相談相手に、か  
えて戴いたのが、つまりこの写真  
術であります。従つて今回、版を  
新たにするにつきましても、編集  
は出来得る限り平易に、親切に、  
然も今日の写真術の上に立脚して  
あなたのヤシカを十二分に活かし  
ていただけるように心掛けまし  
た。カメラの一番正しい扱い方は  
結局、その性能と機構をよく理解  
し、それに新しい写真の知識を基  
礎にして十分に使いなれて戴く事

## 二眼レフとは？

カメラ・オブスクラによって鏡を使ってスリガラス上に映像を見る方法が、四〇〇年以上も前から実用化されていたので、この方法をカメラに応用することは早くから行なわれ、反射式カメラすなわちフレックスカメラが生れたのですが、カメラ・オブスクラと違って撮影をしなければなりませんので、映像を見る時には鏡を使用し、シャッターをきる時には鏡をはね上げて、光線を乾板の方へ送る方式が採用されました。

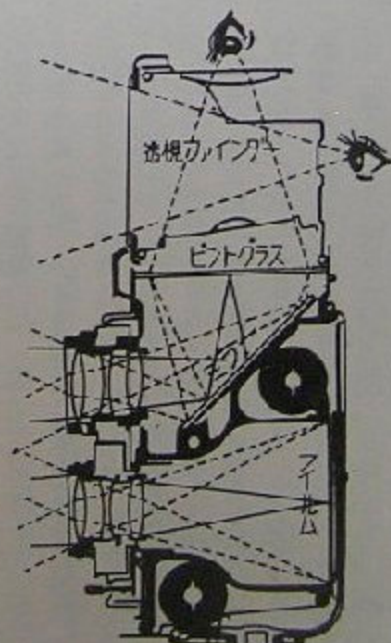
しかし、この方法によると撮影の瞬間には映像が見えなくなるという欠点があるため、映像を見るためのレンズと撮影用のレンズとを別にし、二個のレンズを有するレフレックスカメラが考案されましたが、レンズが二個あるので二眼レフといわれ、これ

じといえます。

今日一般に使われているロールフィルム用二眼レフは、一九二九年にドイツのフランケ・ハイデッケ社ですが、二眼レフの構想はかなり古く一八八六年のシンプレックス・マガジン・カメラによって、木製ス型の二眼レフが出来ております。

ロールフィルムもフィルムバックも無かった時代撮影が出来るように、後部上方の鏡の後に乾板収容部（すなわちマガジン）があり、一枚ずつ下方に落ちて撮影するようになっておりました。

その後も乾板用のかかなり高級な二眼レフもイギリスあたりで実用化されました。



二眼レフの構造

に対してレンズ一個のレフレックスカメラを一眼レフと称するようになったのです。

つまり二眼レフというのは、ボックスカメラの上にかメラ・オブスクラをのせたようなものですが、上下のレンズは同一平面上に取付けられており、同時に繰出されるか、或いは上下レンズの前玉がギアで連動されて同時に廻轉しピントを合せることが出来ますから、その原理においては全く一眼レフと同

なブローニーフィルムを使うのではなく、出という特殊サイズのフィルムを使い、6×9センチ判のネガを得るようになっていたのであまり評判は良くなかったのですが、間もなく何処にでもあるブローニーフィルムを使って6×6センチ判12枚撮りを完成、その後フィルムの自動捲止、その他の装置を備えたスタンダード型の登場に到り確固たる地位を築きます、以後今日まで世界の二眼レフの王座を占めております。

戦後、カメラ生産国として世界の注目するところとなつた日本でも、勿論この二眼レフの生産は極めて盛んであり、世界に対してもはやひげを取らないまでに到りました。

# 各部機構の 扱い方



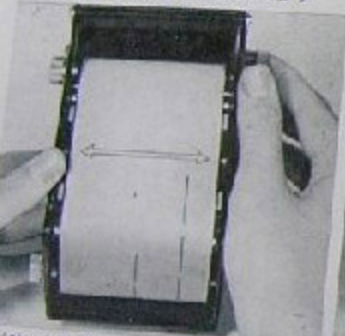
順序に従った正しい扱い方が  
大切です。乱暴に扱ったり  
手荒がいかから生じた無理を押し  
とおすと、思わぬ故障が出  
てきますから注意して下さい



(5) フィルムの先端(リダーペーパー)を引き出しスプールの中心の溝に差しこみます



(2) 裏蓋を開くと空スプールが入りません。これが新しい捲取用スプールなのです



(6) 少し重ねますとフィルムに△印が出てきますからこれをカメラの△印に合わせて……



(3) 上部の捲取りノブの反対側のスプールノブを引けば、空スプールは容易に入ります



それから裏蓋をしめ、Cの印通りに押し、完全にとまればよいのです



(4) 新しいフィルムを下部の方に前と同じ要領で入れて下さい

—その1—

## 革ケースの外し方



①



②

①ケースの上部左右の差込み金を双方上に引き  
②横出ノブのある側から引き抜く様にして外します  
③前蓋をとる時はボタンを外します。



③

—その2—

## フィルムの 入れ方の説明

フィルムをカメラに入れ、事を装填とも云います。フィルム装填の際は次の順序にて日光の直射光を避け行って下さい



(1) 裏蓋止めの金の外輪をO矢印通りに廻しますと自動的に裏蓋が開きます



①



②

### ヒザの利用



③

しゃがんで下から狙う時も、やはり体を安定する様に構える事は勿論です。更にカメラは④のようにうかせておくり、⑤の如くにヒザを利用し、より安定した状態で撮影して下さい。



④

スナップやスポーツ写真は勿論、人物撮影の場合でも、直接被写体を直視して最も良い瞬間をキャッチしたい。又、眼の高さから被写体をねらいたいと云う時には、スポーツファインダー(透視ファインダー)を利用して下さい。この場合あらかじめピントを合わせた被写体は、ピントを合わせる必要がなくなります。

### 利用の器

カメラを安定させるには三脚が一番よいのは言うまでもない事ですが、その場を用意していない時には、あたりにある三脚に代るべき器物や場所を利用してみて下さい。勿論、高さや角度の自由は三脚には及びません。

が、それでも多少以上の露光を与える場合には、無理をして手持ちでカメラを起すよりは、ずつと有効と云えましょう。たとえばAのように平面的な器物があれば完璧です。又、低い位置(ローアングル)からの

撮影は、二眼レフの独壇上ですが、この場合にはBを参考にしてください。但し、Cのように速写ケースをつけたままでは撮影レンズが邪魔されて画像がけられる事がありますから御注意願います。



A



B



C